

I 綾瀬市の概要

1 位置と沿革

綾瀬市は、神奈川県の中核地域南部に位置し、東は大和市、西、北は海老名市、南は藤沢市にそれぞれ接し、東西4.2km、南北7.6kmで、地形は比較的平坦であり、行政面積は、22.28km²である。横浜まで約20km、都心まで約40kmと地理的条件がよく、また、市内からは、西に大山・丹沢連峰をおさめ、遠く富士の秀峰を仰ぐことのできる、恵まれた自然環境の相模野台地に位置している。

この地で人々が生活をはじめたのは今から約3万年前からで、吉岡の綾瀬浄水場には南関東最古級の石器が出土している。

また、目久尻川、蓼川、比留川、引地川沿いの台地縁辺部には旧石器時代から奈良・平安時代にいたる遺跡が数多くあり、綾瀬がとても住みやすい風土の地であったことがうかがえる。

平安時代の末期には、東郷平八郎元帥の祖である渋谷庄司重国とその一族が綾瀬市域に進出し支配した。早川城跡は、渋谷一族によって築かれた山城と伝えられ、平成20年2月に神奈川県指定史跡に指定されている。

戦乱の時代が一端終焉した江戸時代になると、各地で新田開発が盛んに行われた。綾瀬では大規模な新田開発として蓼川新田が挙げられる。蓼川周辺は、もともと萱などを採集する入会地であったが、寛文13年（1673）に新田開発により蓼川新田村が成立し、のちに蓼川村となった。

明治維新を経て、明治4年（1871）神奈川県下に属し、明治22年市制町村制施行と同時に、深谷、本蓼川、蓼川、寺尾、小園、早川、吉岡、上土棚の八カ村が合併して綾瀬村が誕生した。

昭和に入ると時代は急速に変化し、昭和16年には相模野海軍航空隊が創設され、人口も一挙にふくれあがり、昭和20年4月1日に町制を施行した。8月には太平洋戦争が終わりを告げ、新しい日本の幕開けとなった年でもある。戦後の復興期を経て、日本経済の発展に伴い、住宅開発や工業地域化が急速に進行し、昭和45年の国勢調査では2万5千人であった人口も、昭和50年の同調査では、倍の5万人と急増、地域社会の様相も一変した。

昭和53年11月1日市制を施行し、現在では人口8万2千人を超える県央の中堅都市として発展し続け、平成13年にスタートした新時代あやせプラン21、「緑と文化が薫るふれあいのまちあやせ」をめざしたまちづくりは着実な歩みを見せている。

平成17年3月には市の商業の中心核となる大型ショッピングセンター「タウンヒルズ」も完成し、これに併せて周辺も商業圏として整備され、新たな賑わいを見せている。また、大規模住宅地の開発が進み、新住民の増加とともに着実に市の中心市街地が形成されつつある。

綾瀬市の位置



最東端	最西端	最南端	最北端
西経 139° 27' 40"	東経 139° 24' 20"	北緯 35° 24' 13"	北緯 35° 27' 53"

2 人口及び世帯数の推移

年 月 日	世帯数	人 口			備考
		総数	男	女	
昭和35年 10月1日	1,561	8,304	4,088	4,216	国勢調査
昭和40年	2,816	12,611	6,570	6,041	〃
昭和45年	6,196	24,960	12,972	11,988	〃
昭和50年	13,654	50,367	26,357	24,010	〃
昭和55年	18,581	65,078	33,645	31,433	〃
昭和60年	20,524	71,152	36,944	34,208	〃
平成 2年	24,068	77,926	40,869	37,057	〃
平成 7年	26,516	80,680	41,849	38,831	国勢調査
平成12年	28,386	81,019	41,914	39,105	国勢調査
平成15年	29,864	81,875	42,314	39,561	
平成16年	30,464	82,545	42,565	39,980	
平成17年	29,988	81,767	41,943	39,852	国勢調査
平成18年	30,251	81,763	41,803	39,960	
平成19年	30,717	81,948	41,928	40,020	

